

令和6年11月22日

富士JCアンケートに対する考察

富士市議会 一条 義浩

私たち市議会議員の仕事は、市民の日常生活に密着した問題に多く関わりますが、本来はもっと広い視野で富士市を分析し、未来像を描くべき立場です。しかし、現実には及第点には至っていないかも知れません。今回、このような機会をいただけたことに感謝しております。また、富士JCのOBとして、皆様の積極的な活動に懐かしく思うと同時に憧憬の念を感じています。

さて、アンケート調査の中で特に興味深かったのは、Q4以降の記述式の設問です。Q4の「富士市の魅力」について、多くの回答者が「富士山を中心にした豊かな自然環境」を魅力に感じていると答えていました。この唯一無二の存在が中高生の心に刻まれていることに安堵を感じます。将来、進学や就職で一時的に市外に出ても、富士山と共に過ごした時間を思い出し、いつの日か彼らが富士市に戻ってきてくれることを切望しています。

最近、仕事で関わった関西出身の医師は、本市の豊かな自然環境や生活環境を気に入り、市内に自宅を構え、さらにはクリニックを開業する予定です。このような方がいることに感謝すると共に、あらためて、このまちで生まれ育ったことを誇りに思うところです。

Q5の「富士市に不満に思うこと」については、「遊戯施設や商業施設が少ない」「交通事情の悪さ」といった回答が多く、総じて「富士市に魅力がない」と評価されています。しかし、多くの市民は「映画館がない」などの不便さを感じつつも、日常生活を送る上では大きな不自由はないはずです。さらに、近隣自治体にまで目を向ければ、不自由さはさらに少ないと思います。

なぜこのような不満が生じるのか？

やはり、このまちに『華やかさ』や『キラキラ感』、『インパクト』といったものが不足しているからだと思います。老若男女問わず、夏の花火大会や冬のイルミネーションには多くの人が魅了され、感動を覚えます。しかし、製造業中心に発展してきた富士市の街並みは、堅実さがある一方で華やかさに欠け、特に若い世代には物足りなさを感じられるかもしれません。私自身もそうでしたが、多くの若者がきらびやかでエネルギッシュな町に魅力を感じ

るのは当然です。

そのためには今後は、市外からの観光誘客も期待できるような『キラキラした』施設の整備やイベントの誘致を積極的に行う必要があると思います。現在、本市の企業誘致策（補助金等）は製造業を中心としたもので、税収面では一定の効果を上げていますが、今後、市民の心が沸き立ち、一体感が得られるような魅力的な施設やイベントの誘致を求めています。

一点、「工場の臭いがきつい」という不満の声も見られますが、富士市が工業都市として発展してきたおかげで、他の自治体と比べても恵まれた状況にあることを理解してほしいと思います。

「交通事情の悪さ」についても指摘がありました。この問題は、本市が合併によって作られたため、中心市街地が定まらず、各施設が分散しているため、何をするのにも移動が強いられることから感じられるかもしれません。それをつなぐのが公共交通ですが、衰退の一途を辿っているのが現状です。

来月 12 月下旬に本市主催で『高校生議会』が開催され、私もサポート役を務めています。私が担当する学校では『新富士駅と富士駅間のアクセス』について質問するというので話し合いました。

「新富士駅と富士駅間に、一日に 50 本のバスが 190 円の運賃で運行していることを知っていますか？」と尋ねると、「全然知らなかった」と皆驚いていました。その上で、「新交通システムを導入さえすれば、利用が増えるのか考えてみてください」と伝えました。

その後、学生たちが導き出した答えは秀逸でした。

それは「都会の人は地下鉄の乗り換えでもかなりの距離を歩くことに慣れているが、地方都市（本市を含め）の人はドアツードア（Door to Door）が当たり前なので、徒歩 5 分のバス停にも行きたがらない。だから公共交通機関が発展しない」というものでした。その上で、「歩くこととセットで、公共交通を利用してもらうための PR や仕掛けが必要である」という結論に至りました。これは、地方都市で公共交通機関が衰退する原因を見事に言い当てています。

私たち議員も行政も、知恵が足りず手をこまねいていたことを反省しています。これまでも委託料や補助金の形で公費負担をしてきましたが、より思い切った投資を行い、『誰もが乗りたくなるような公共交通』の導入を先進事例を参考に進めていかなければならないとあらためて実感しました。

Q6、Q7の「不満の理由」「改善するための方策」についても的確なご意見をいただきました。「～してほしい」という意見が多数を占める中、「自分がゴミを回収する」「謙虚になる」「一人一人が意識する」など、主体的な意見もあったことを嬉しく思いました。

もちろん私たち議員をはじめ公職にある者がもっとしっかりしなければなりません。若者世代を含め、さらに多くの市民が問題意識を持ち、些細なことでも行動に移さなければ、富士市の発展はおろか、人口減少社会を乗り切るのは難しいと感じています。

最後に、「Q8. 今回のあなたの意見を、富士市議会議員が議会に届け、行動してくれると思いますか？」という設問に対し、「はい」が20.7%という結果にはショックを受けましたが、自戒の念を持ち、今後の活動を進めてまいります。この結果は私たち議員にとって大きな反省材料であり、市民の皆様との信頼関係を築くために、さらなる努力が必要であることを痛感しました。市民の声を真摯に受け止め、具体的な行動に移すことで信頼を回復し、期待に応えていきたいと考えています。